

## 学会ニュースNo.98 トピックス

- |   |                   |
|---|-------------------|
| ・2010年度(第65回)総会・研究発表大会のご案内              | ・地理写真展作品の募集       |
| ・2010年度立正地理学会評議員会のお知らせ                  | ・第106回臨地研究会(秋田)報告 |
| ・地理学教室だより-地理調査法およびフィールドワーク報告(大塚昌利先生クラス) |                   |
| ・2009年度卒業予定の学生会員の皆様へ                    | ・会費納入のお願い         |

## 会 告

### ○2010年度(第65回)総会・研究発表大会のご案内

2010年度(第65回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

#### 記

1. 日時:2010年6月5日(土)9:00より
2. 会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A205 教室  
(当日、校内に案内を掲示いたします)
3. 総会委任状について  
総会委任状は次号の学会ニュースに同封します。
4. 昼食  
学生食堂(ステラ)が営業しています。
5. 懇親会
  - 1)会場:立正大学熊谷校舎学生食堂(ステラ)
  - 2)会費:一般 4,000 円、学生 2,000 円
  - 3)時間:17:00~19:00(予定)
6. 発表申込について
  - ・発表希望者は、3頁の発表申込用紙に所定事項を記入の上、2010年4月23日(金)までに集会委員会宛に送付して下さい。
  - ・メールでも受け付けております。申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。送付先アドレス:geosoc@ris.ac.jp
  - ・発表の形式は、口頭発表とポスター発表です。このほかに地理写真があります。いずれかを選択して下さい。
  - ・口頭発表は発表時間15分、質疑応答5分の合計20分です。
  - ・発表要旨集は作成しません。発表者は必要に応じて発表資料を用意して下さい。
  - ・スライドやOHPの利用をご希望の方は集会委員会までご相談下さい。
  - ・パソコンと液晶プロジェクターはこちらで用意します。プレゼンテーションソフトはWindows版PowerPoint2007です。Windowsで読み込めるフォーマットでUSBフラッシュ

ュメモリーに保存して、当日会場へご持参下さい。Mac をご使用の場合は予めご連絡願います。

- ・研究発表者は、研究発表要旨を必ずご提出下さい。研究発表要旨は『地域研究』に掲載いたします。『地域研究』の執筆要項にしたがってご執筆の上、大会当日に編集委員会までご提出下さい。

#### 7. 研究発表大会プログラム・会場案内について

研究発表大会プログラム・会場案内については、次号学会ニュース(2010年5月発送予定)、ならびに学会ホームページ(<http://www.ris.ac.jp/geosoc/>)に掲載いたします。

#### 8. 展示について

例年、地理関係出版社の出版案内や図書販売がおこなわれております。個人向けの展示スペースも確保しておりますので、地図等の展示を希望される方は、集会委員会までご照会下さい。

### ○地理写真展作品の募集

今年も立正地理学会総会・研究発表大会と同時に、地理写真の展示を開催いたします。会員諸氏が自ら撮影し、地域の特徴をよくとらえていると思われる写真の出展をお願いいたします。

出展者は2010年4月23日(金)までに3頁の地理写真申込用紙に所定事項を記入の上、集会委員会宛に送付して下さい。メールでも受け付けております。申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。送付先アドレス: [geosoc@ris.ac.jp](mailto:geosoc@ris.ac.jp)

作品は、以下の様式にしたがって作成したものを持参し、大会当日に所定の場所へ展示願います。また大会終了後は、各自でお持ち帰り下さい。

#### 【地理写真展 様式】

・A1(594×841mm)の台紙をタテに使用して下さい。

※1 写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。

※2 キャプションには、内容・場所・撮影日時など、撮影時の状況を付記願います。

(作品例)

テーマ	
氏名 (所属)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	

2010年3月

## 2010 年度 研究発表大会 発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
・発表題目:
・発表形式(↓いずれかを○でかこんで下さい)  口頭発表 ・ ポスター発表
・連絡先 氏 名:  住 所: 〒       —  電話番号:       —       —       ( 自宅 ・ 勤務先 ) E-mail:

## 2010 年度 地理写真展申込用紙

・氏名(所属)
・テーマ:
・連絡先 氏 名:  住 所: 〒       —  電話番号:       —       —       ( 自宅 ・ 勤務先 ) E-mail:

※申込用紙をコピーしてご利用いただくか、立正地理学会ホームページからファイルをダウンロードして下さい。

## ○2010年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2010年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

### 記

1. 日時:2010年6月4日(金)18:00より
  2. 場所:立正大学熊谷校舎 アカデミックキューブ A610(会議室)
  3. 議題:1. 2009年度事業報告の件  
2. 2009年度決算報告の件  
3. 2010年度事業計画案の件  
4. 2010年度予算案の件  
5. その他(他に議題のある評議員の方は、集会委員までお知らせ下さい。)
- 詳細については、次号ニュースにて評議員の方に同封する出欠ハガキをご確認下さい。

## ○第106回臨地研究会(秋田)報告

2009年11月8日(日)、上村康之(ノースアジア大)会員・後藤忠志(秋田看護福祉大)・岩谷宣行(秋田明德館高)会員の案内により第106回臨地研究会・秋田地理学会巡検が、秋田県大潟村および男鹿市において行われた。テーマは「八郎潟干拓地ならびに周辺地域における自然環境と住民生活」であり、参加者は27名であった。今回の臨地研究会は、大潟村、男鹿市、潟上市を巡る行程であった。

午前8時に宿泊地であるサンルーラル大潟を出発。大潟村は見渡す限り水田と畑地が続く、その起伏の乏しい景観からは、かつて琵琶湖に次ぐわが国第2の湖として知られた八郎潟が干拓によって平地となったことがよくわかる。一行は、大潟村の様子を見学しながら、役場近くにある干拓博物館へと向かった。

干拓博物館は八郎潟干拓事業や土地利用の変遷を一覧できる航空写真の他、干拓の技術や排水のメカニズムを再現した模型が展示されており、大潟村の歴史を学ぶことができる。また、当時の入植者たちの生活を収めた貴重な写真も展示されている。入植初期の大潟村の排水路は多くが素掘りのままであり、フナやコイをはじめとてたくさんの魚が生息していた。農作業の合間に排水路で魚を捕まえ、それを農道で調理して即席の宴会をしている入植者の姿を当時の写真からみてとることができた。

大潟村を後にし、一行は寒風山の北東麓にある「滝の頭」と呼ばれる湧水群へ向かった。滝の頭湧水は、寒風山麓の総湧出量の7割・一日あたり約2万5千トンという膨大な湧水量を誇り、古くから農業用水や飲料水として利用されてきた。現在は男鹿市浄水場となっているが、場内の円形分水工は38穴の分配により各地域へと通水される水の量を調整してきたもので、水利争いの厳しさを物語っていた。

湧き口に近付くにつれ、ごつごつとした大きな岩が目立つようになる。これは寒風山の7度にわたる噴火によって積み重なった安山岩であり、岩の至る所から湧水が見られた。寒風山は、後期更新世の段丘面上に形成された成層火山であり、滝の頭は溶岩流の末端部に位置している。溶岩の無数の割れ目に雨が浸透し、堆積岩層につきあたって伏流水になると、末端部の滝の頭から湧出するのだという。湧き口には今木神社という不動尊が祀られ地域の人に敬われていた。

一行は寒風山の頂上を目指すが、途中で石切り場が点在していた。採石される岩石は「男鹿石」もしくは「寒風石」と呼ばれ、石の産地としても知られている。頂上からは、湾曲す

る海岸線とともに天皇砂丘が一望できた。天皇砂丘は海岸線に並行する砂丘列であり、今回は海岸側から海岸砂丘、中央砂丘、桃ノ木台砂丘の3つが観察できた。砂丘帯には秋田県果樹試験場天皇分譲が立地し、ナシやブドウの栽培が盛んである。

最後に再び八郎潟へ戻る。八郎潟と外海をつなぐ水道部分の八郎潟防潮水門は、八郎潟干拓事業で造成され、貯水池(残存湖)の水位を一定に保ち、農地の灌漑用水として利用するために貯水池に海水が入るのを防いでいる。調整池内を淡水化することにより干拓地及び周辺農地の用水確保を図っているのである。防潮水門の近くには秋田の伝承の龍である八郎太郎を祀っている八龍神社がある。秋田の紀行家である菅江真澄もここを訪れており、真澄記にも登場する。一方で八龍神社は古くから漁師の間で信仰の厚い神社であり、神社の装飾にもボラを模ったものが見られた。干拓事業により生息地の殆どが消失してしまった魚類や水鳥への供養として、小魚供養塚、若鷺供養塚、鰻供養塚、湖鰻供養塚、魚類供養塚などの供養塚が立ち並んでいる。干拓事業と防潮水門の建設により農業は発展したが、潟の殆どは陸地となり、わずかに残った潟も淡水化したため、潟の生物とともに潟漁業の殆どが消滅してしまったのである。巨大な防潮水門とその周囲に佇む供養塚は、干拓事業の規模の大きさを象徴するものであった。14時過ぎに、秋田駅東口にて解散した。

今回の臨地研究会は、秋田県の11月とは思えないほどの快晴であった。大潟村の干拓の歴史と、それを取り巻く自然環境、人々の生活の変化を学ぶことができた。最後になりましたが、御案内いただいた上村康之(ノースアジア大)会員・後藤忠志(秋田看護福祉大)・岩谷宣行(秋田明德館高)会員の3名には記して厚くお礼申し上げます。

(集会委員 穴戸隆史)



写真1 男鹿市滝の頭水源にて(鈴木厚志会員撮影)

## ☆地理学教室だより☆

地理学科では授業の一環として、フィールドワーク(現地調査)を行っています。今年度で最後となるフィールドワークを行った大塚先生と参加学生から2年生のフィールドワークについてお話を伺いました。

### ○地理調査法およびフィールドワーク報告(大塚昌利クラス)

日 時:2009年10月13日~16日

場 所:佐賀県唐津市~長崎県長崎市

参加人数:地理学科2年生 17名

テーマ:景観から地域をとらえる

フィールドワークの狙い:卒業論文作成の準備として、地域の観察力と現地調査の訓練

### フィールドワークの楽しさと価値

フィールドワークを行うにあたっては、高学年次生に対しては比較的狭い地域を対象として、聞き取り調査を中心に地域や地理的事象の分布、立地、形態、機能などを深く理解する方法をとってきた。これに対して、低学年次生には比較的広い地域を対象に、移動しながら各種の地理的事象を地域と関連づけて理解させる、いわゆる general survey という方法をとってきた。もちろん移動と観察だけでは地域を知るには不十分である。そこで低学年生に対しても一定の場所で調査させることも加味してきた。

今回は2年次生を対象としたフィールドワークであり、以下のように行った。

1.佐賀県唐津市で、まず唐津城のある高台から町を俯瞰し、絵図と現在の地形図を携えながら、旧城下町のたたずまい、商店街の観察などを行い、地域の空間的、時系列的な変化をとらえた。

2.貸切バスで伊万里、有田、波佐見、三川内の磁器産業地域を訪れ、地域の自然的特性や立地特性などを観察、説明し、資料館等を見学した。また、窯元での聞き取り調査を行い、比較しながら各産地の特性や共通性を考えた。

3.長崎市を対象に、各自が設定したテーマに沿って現地調査を行った。事前に資料を収集して概要を把握するとともに、調査票を作成して現地に望んだので、各自が目的に沿った調査結果をそれなりに得ることができた。

4.フィールドワーク終了後は、データ処理、不足したデータの補充、図表化を進め、レポートの作成という手順となる。この間、データベース化の方法や、図の作成・表現方法、レポートの作り方を指導しながら成果品を完成させた。

今回のフィールドワークは、general survey と聞き取り調査を体験するというものであった。テーマを決めて行う聞き取り調査は、どうしても系統地理的になってしまう。それを地域全体の中に位置づけるためには、当然ながら二つの方法は同一の場所で行われることが望ましい。高学年生のフィールドワークではそのような方法をとってきた。低学年生でもそのあたりを考慮する必要はあったが、二つの方法を経験できたことはそれなりの効果をもたらしたであろうと考えている。また、広く地域を見ておくことは、縮域的な見方にも効果がある。

百聞は一見に如かずという。森羅万象が地理的事象になるのであり、それらを通して地域を知り理解することは、その土地に触れてこそ可能となるのである。こうして学んで得た知識、“学習知”が現状に対する課題を浮かび上がらせ、さらに“方法知”によってそれに対処することができるようになる。それはマニュアルに沿った画一的なものとは一線を画すも

のである。ここにフィールドワークの楽しさと価値がある。(大塚昌利先生)

### 大塚先生から学んだこと

田村 健太郎(地理学科2年)

大塚ゼミでは、事前に資料の収集方法や現地調査の方法などを教わり、現地でスムーズに調査が行えました。現地では、一瞬の風景も見逃さずに解説する大塚先生の姿が印象的でした。「〇〇の工場があったけど見えた？」と、そこに工場がある理由など地域の見方を教わりました。レポートをまとめる時には、先生から鋭い指摘を頂きました。写真や図表のタイトルの付け方、出典の書き方など見逃してしまいそうな小さな点まで丁寧に教えてくださいました。この半年間は、まさに地理学の基礎を学ぶゼミとなり、今後のフィールドワークに活かせる土台作りができました。

### 地理学にとっての「材料」と「調理」

砂川 由美子(地理学科2年)

今回のフィールドワークでは、長崎県、佐賀県と伝統工芸品の焼物産地をまわり、産地ごとの違いや工夫を見ることができ、また伝統産業を守る人々とのつながりを実感することができました。大塚ゼミでは現地での聞き取り調査を行う機会が多いので、聞き取り調査能力が身に付いたと思います。大塚先生は、レポート作成を「料理」に例えます。まず、現地に行く前に資料を集め、現地では聞き取り調査結果や写真などの、様々な「材料」を集めます。そして、レポートの作成つまり「調理」にかかります。その「材料」がいかに大切かを教えていただきました。



現地でのフィールドワークの様子(吉池会員撮影)

## ○今年度卒業予定の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお薦め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、事務手続きの都合上、5月21日(金)までに年会費をご納入いただければ幸いに存じます。他大学や大学院などに進学される方は学生会員(2,500円)、それ以外の方は一般会員(4,000円)となります。郵便振替口座の番号・加入者名は次の通りです。

## ○会費納入のお願い

2009年度分会費が未納の方は、お早めにご納入下さい。過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000円 学生会員 2,500円  
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下のとおりとなります。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキョウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さいますよう、よろしく願いいたします。最近、払込取扱票の払込人住所氏名の欄が未記入のものが多く見受けられます。とくに、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない払込取扱票の対応に苦慮しております。何とぞ、ご入金の際には氏名欄のご確認をお願いいたします。

(庶務会計委員会)

### 編集後記

早いもので、1年はあっという間に過ぎ、来月から新年度が始まります。この1年で熊谷キャンパスはさらに再開発され、旧地理学科の研究室にも実験室や実習室が作られました。広い教室で地図を広げ、話し合う学生の姿が目に見えます。

そのような充実した学生生活をお伝えできるように、本号より新たに“地理学教室だより”という項目を掲載いたしました。立正地理の活動や授業風景を皆様にお届けできたらと思います。

(広報委員・須田 恵里香)

## 立正地理学会ニュース No.98

2010年3月16日発行 編集者 立正地理学会広報委員会  
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内  
電話 048-539-1670 振替 00130-8-13453